

創立20周年記念誌



大阪府立柏原東高等学校

創立20周年記念誌









校歌

作詞 田中 喜一
作曲 近藤 啓

一 我ら今ここに集う

限りなく息吹く大地に

新しき力は燃えて

ともに開かん未来の礎

信貴生駒山並のぞむこの岡辺

我ら今ここに生きる

我らが高校柏原東

二 我ら今ここに学ぶ

豊かなる歴史を継いだ

美しき心は燃えて

ともに歩まん真理の道を

大和川さざ波光るこの岡辺

我ら今ここに育つ

我らが高校柏原東





創立20周年を迎えて

校長

朝田 省三

本校は柏原市高井田の緑豊かな丘陵地に位置し、大和川の清流を眼下に望み、新芽吹く春の訪れとともにうぐいすの啼くこえが窓辺にきかれ、かつて頼三陽がこの地を「河内嵐山」と賞賛した恵まれた教育環境にあります。

本校は府立109高等学校として昭和52年4月1日に開校いたしました。

さて、創立以来、知、徳、体との調和のとれた人間形成を基幹とした教育方針を目標にして、教育活動を実践してまいりました。そして、本年、創立20周年の意義ある年に記念式典行事の開催、並びに記念誌の発刊ができますことは誠にうれしく光栄に思います。

「故きを温ねて新しきを知れば、以て師と為すべし」と論語にもありますように、本校の歴史を顧みること未来への新しい教育の再生と創造をもたらす好機であります。これまでの本校の20年の歩みは決して容易なものではなく、激動する時代に幾多の苦難がありました。歴代校長、教職員の不撓不屈の精神とたゆまざる努力、またその事実に応じてくれた生徒諸君の母校を思う心と頑張り、更にPTA、河嵐会、同窓会、関係諸団体のご支援ご協力により、幾つかの諸問題を克服し、教育成果を達成しながら、現在の安定した柏原東高等学校の基盤ができあがりました。

今、学校は変化する社会にあって、高校教育改革を推進し、教育の質的な充実、高校教育の多様化、個性化がはかられています。情報化、国際化、生涯学習等の進展の中で、学校のもつ役割も転換の時期にきています。本校は生徒急減期をむかえ、創立時は1学年12学級（1学級46人）規模が、今や、7学級（1学級40人）規模と生徒数は20年前の半数となっています。しかし、本校は急激な社会変化の中を普通科高校として地道な進展を遂げてまいりました。そして、今年創立20周年を記念する年をむかえ情報化時代にふさわしい「情報処理（商業）コース」を設置いたしました。

また一方において、本校は教育の一環として磨けば光る生徒の個性、能力、独立心、更に人間の生き方、在り方の底流となる豊かな心の育成にも努めている所です。高校教育は人生を築く基礎でもあります。この時代にありとあらゆる「善の可能性」を伸ばし、毎日を一生懸命に生き、当たり前のことと言え、当たり前のことのできる当たり前の人間を育て、社会や地域に貢献できることを念願しております。

「未来は未来を準備する人に属する」と言われる。21世紀にむけて、将来の夢はその夢を実現させるために準備することがわたくしたち現教職員の責務であります。今後、柏原東高校が未来に向けて、人類社会に学校全体が光り輝き、魅力ある充実した学校として発展するために、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。終わりに、記念誌編集をはじめ、創立20周年記念行事のために労を厭わず、ご尽力賜りました皆様に対しまして、心から敬意と感謝を申し上げます、ご挨拶といたします。



創立20周年をむかえて

PTA会長

後藤 彰

今年、本校が創立されてからちょうど20年を迎え学校、PTAは勿論地域を挙げて記念の事業が挙行できますことも心よりお慶び申し上げます。

この意義ある年に名誉と伝統ある本校のPTA会長として、次代を担う子供達の教育に寄与し得る機会を与えて頂いたことはまことに光栄と考えている次第です。これひとえに歴代の校長先生、諸先生方、またPTA、地域の諸先輩、保護者のみなさんのご苦勞、ご協力のお蔭と敬意を表するものであります。

今、21世紀を目前にし、世界でも有数の先進国となり、科学技術の進歩による合理化の推進や能率の向上によって、日常生活は、一昔前では考えられない程便利で、豊かになっています。しかし、その反面、道徳的心情に欠け、人に対する思いやり、遅しい心身がともすれば、なくなりがちな現代を象徴するかのようになりつつあります。

先生方のご努力は計り様もなく大変な事だと思われます。私達親の立場として、母親ばかりに押付けるのではなく父親も積極的に考えなければならぬと痛感致しました。PTA活動を通して会員の情報交換はもとより、私達も子供の視点に立って、見つめ直し、学ぶ必要性を感じております。私達PTA会員といたしまして微力乍らも協力させていただきますと共に、今後の柏原東高等学校の益々の発展と、50年、100年と伝統が築かれることをお祈り致します。

最後に望みまして周囲山々の緑に囲まれました「環境」の良い、柏原東高等学校の栄誉と繁栄を願いつつ、私の御祝いとさせていただきます。



創立20周年を迎えて 「継続は力なり」

創立20周年実行委員長

乾 恒雄

府立柏原東高等学校20周年記念、誠におめでとう御座います。心よりお祝い申し上げます。

昭和52年（1977）に、大阪府下109番目の府立高等学校として、柏原市の東山丘陵に連なる風光明媚の地に、創設され、学校の校章の由来も、柏原市で唯一の公立高校であり、地域に密接した意味をこめ、市章に「高」と文字を組合せあり、創立時より同市と深い関係を保ちながら、早や20年の歳月が流れ、新設校より中堅校として、確実に歩みを続けられる事も、開校より、今日の基礎を基づかれた、歴代校長、教頭、教職員の諸先生方々の、日夜を惜しまない、教育（勉強）と、又生徒指導に献身的な御努力と創立時よりPTAを発足し、通学路、自転車置場の改良、改善、JR高井田駅誘致と奉仕活動を維持発展させられたPTA歴代会長を始め、実行委員の方々と別途活動に保護者を発足、PTAと共に学校事業に参画され、約10年に渡り、学校事業を側面より協力された保護会の皆様に、心より敬意を表わし、お礼を申し上げます。幾多の諸先輩の皆様が本校の三つの柱である。

①自らの品位を高めよう。②困難に打ち克つことの喜びを見つけよう。③進んで公共に奉仕しよう。の事柄を良く理解されて、学ぶ生徒達の成長を期待しつつ、奉仕活動された結果として、今日の佳き日を迎える事が出来たと思います。最後になりますが、創立時より御世話下さった、行政関係各位、地域の皆様そして本20周年記念事業を実行するに当り、担当して頂いた学校の先生、柏東河嵐会、PTA、同窓会の実行委員及び会員の皆様、保護者会の方々には、物心両面にわたる数々のご協力、ご支援を頂きました事を深く感謝を申し上げます。

此の20年のあゆみから、学校、生徒、家庭、地域が幼年、少年、青年期と成長する過程を「継続は力なり」と表現させて頂き、諸先輩が築かれた基盤を、しっかりと踏みしめて、来21世紀に向けて、自らが考え、たくましく豊かな人間性と、健康で丈夫な体力をはぐくみ、確実に一步一步進め、社会に貢献出来る人間形成を目盛し、日々邁進される事を念じ、又今日20周年は永い歴史の通過点であり、府立柏原東高等学校が今後30年、40年と年輪を積み、歴史ある校風と伝統の重みづくりに学校、生徒、PTA、柏原東河嵐会、同窓会、そして地域の方々が、なお一層のご支援、ご協力を願えれば幸いな事と存じます。本学校と地域が連携を深め益々の発展を遂げられます事を、心より祈願いたしまして、府立柏原東高等学校20周年記念のお祝いの言葉にかえさせていただきます。



未来を目ざして ますますの発展を

初代校長

巽 三郎
(故人)

創立5周年記念は現職の校長を以て迎えました。

家に配られてくる学習塾のチラシの中に、某有名高校に何十名、某進学校に何十名合格という宣伝文句が毎日のように載っています。そして幸か不幸かその中に本校の名前が見つかりません。誰がいったい何の基準で一流校・二流校の格付けをしたのでしょうか。一流校と称する学校に進学した生徒は、果たしてそれほど人間的にすぐれて立派なのでしょうか。そのチラシを見る毎に私は激しい怒りと憤りで胸が痛むのです。

地下鉄のある駅の階段を上っていると、後から来た若い女性が、「先生じゃありませんか」と言葉をかけてくれました。聞けば柏原東の卒業生で、現在ある病院の看護婦として働いているそうです。また、ある百貨店で手洗いの場所を女店員さんに尋ねたところ、「御案内しましょう」とわざわざ私を手洗いの前まで連れて行ってくれて、「私、柏原東の出身です。お変わりになりませんか」といってにっこり微笑んでくれました。またある時、近鉄電車の中で居眠りをして、終着駅の高安でまだ気がつかずに寝ていました。近づいてきた車掌さんが、「もしもし、終点ですよ。降りて下さい」といって私を起こしてからしばらく私を見つめて、「あっ、先生ではありませんか、私、柏原東で御世話になりました」といって肩を抱くようにして降ろしてくれました。こんなに人間的にすばらしい諸君の先輩が社会に出て、みんな立派に職責を果たしているのです。

人間を育てるという事は有名大学に多数の生徒を合格させることではありません。心の暖かい誠実な人間を作りあげることこそが人間を育てる本当の意味だと思うのです。どうか在校生の諸君は、胸を張って柏原東に学ぶことに誇りをもち、すばらしい先輩に続いて心暖かい、誠実な社会人として巣立って頂きたいと思います。

(創立10周年記念誌より抜粋しました)



柏原東高校の 創立20周年を祝う

第2代校長

石香 亨

柏原東高等学校が創立20周年を迎えられましたこと、まことにおめでとう御座います。

その間の教職員の皆さんの御努力・PTA関係者の御協力。そして生徒諸君の御精進に対し、深く敬意を表します。

不肖私は2代目校長として、昭和57年4月から、昭和60年3月末まで勤務させていただきました。

南向きの山の斜面に建つ校舎は足下に大和川の河内嵐山と称される景勝の地を見下し、向い側の芝山には春ともなれば景勝の地を見下し、向い川の芝山には春ともなればスモモの花が咲き乱れ、後の山からウグイスの音が聞こえてくるという素晴らしい環境にめぐまれ、チベットのラサにあるラマ教の本山、「ポタラ宮」を思わせませうか。ただ創立当時はJR高井田駅がなかったため、近鉄国分駅から約30分近くかかりまして、通勤通学には大変不便でありました。当時校長として困ったことの一つに非常勤講師の手当てでありました。不便なために来てくれる先生がなかなか見つかりませんでした。当時テレビに出ていた女のタレントさんが講師をしたいと申しだったので、その方を講師として採用したこともあった程です。

自然環境は抜群でありましたが、それ以上に素晴らしかったのは実に優秀な先生方が揃っておられたことです。新設高校が立派に育つためには、なんと云っても先生方のチームワークであります。次々におこる諸問題を先生方のチームワークで乗り切らねばなりません。既設校で充分経験をつんでこられたベテランの先生、又若い先生方も当時は教員の採用テストで優秀な方から新設校へ配属されることになっていました。これらの方々が一致団結して生徒指導にあたられました。特に感動したのは進路指導で多くの就職を希望する生徒のために就職のための企業訪問に奔走される先生方の姿でありました。1日の授業と会議に疲れ果てながら、家庭訪問に又就職先の開拓にグチ一つこぼさずに頑張る先生方の「聖者」のような努力が実って今日の柏原東高校が在ると申したいのです。



10年前の 思い出などから

第3代校長

玉井 庄平

創立20周年を迎えられることを、共に心からお喜び申し上げます。月並みですが年月の経つ速さに驚いています。

同時に昭和62年11月8日の創立10周年記念行事をまざまざと思い出します。

記念講演に元近鉄の投手で当時NHKの解説委員の鈴木啓示氏を招き、氏は「草魂」という題で熱っぽく〈やる気〉について語られ、生徒は実に静かに聴き入っていたこと。その後PTA主催の祝賀会が、柏原市の武道館で持たれ、それが文字通り手作りの祝賀会で、PTA役員の方々を中心にテーブル・椅子・机等全てリースで集めて準備をし、献立に至る迄何かとご苦労を給わったこと。他方先生方には来客の下足の世話までやってもらったこと。そして祝賀会の最後を職員とPTAのお母さん方で「いい日旅立ち」の素晴らしいコーラスで締めて頂いたこと。等々を今思い出し、全くもって有難いことであつたと感謝と感激を新たにしております。

さてそれから10年、学校も人の世や人生と同じく喜怒哀楽の一駒々々を刻んでこられたのではないかと拝察しています。その間指導に当ってこられた教職員の方々のご苦労と、PTAの方々のご協力に心から敬意を捧げたいと思います。

終りに私事にわたり恐縮ですが、生徒諸君に一言。私はこの春に英語教師を辞め目下絵を描くことに熱中しています。そこで感じますことは〈美〉—自然も何もかも含めて—が日常の様々な痛みや歪みから、人間本来の生へと高めてくれるということです。

自己の周りに〈美〉を発見し〈美しい〉ことが分ってはじめて人間的な秩序が身につくのではないだろうかと思うのです。

創立20周年この節目に〈美〉について考えてもらえればこれ以上の幸せはありません。



創立20周年を祝う

第4代校長

田代 徹也

創立20周年まことにおめでとうございます。

私が在職しましたのは、昭和63年からの3年間で、学校は既に創立12年目に入っており、新たな飛躍が求められている時期でありました。

当時は生徒数の激増がピークをむかえた時期で、1学年12クラスと校舎も満配の状況で、急減期をむかえた今日とは隔世の感がありました。

先生方も平均年齢が30歳台前半で、新卒者として赴任した人も多く、学校に活気があり、皆で事に取り組む若さがありました。学習指導、生徒指導、部活動、学校行事など、あらゆる教育活動の場で、生徒に相対する真剣さがありました。

私は赴任当時、創立10周年記念誌に書かれている第1期卒業生の「柏原東は私の青春そのものでした」という一文に感銘を受け、草創期の教育の充実ぶりを窺うことができました。そして、若者の期待に応える教育—今を生きる教育の必要性を痛感し、学校の運営にあたってきました。

今、私の手ももには、卒業式当日、雪の降りしきる中庭で、数名の男子諸君が上半身裸となり、体育祭のときに演じたエッサッサを体育の先生と一緒に演技している写真があります。ここには、3年間を燃焼しつくした若者の姿が示されています。

私は生徒諸君が放課後、生き生きと部活動に励む姿に限りない共感を覚えてきました。知・徳・体のバランスのとれた人間形成こそが、今求められるものであり、高校時代に汗を流して得たものが、激変する社会に柔軟に対応する資質を形成するものと確信し、支援してきました。

ふり返ってみると、学校を囲む環境は緑に恵まれており、大和川を望む高台から眺める四季の移り変わりは目をなごませるものがありました。

最後になりましたが、PTAの皆さん方にもよくご協力いただきました。河内という土地柄から、人情の厚さがあり、いろいろな面で心からご支援いただいたことを改めて感謝いたします。

適切な規模のもとに、一人ひとりを大切にされた教育の取り組みを実現し、柏原東高校が今後さらに飛躍・発展されることを、心から期待いたします。